

第28期第13回常任理事会議事録

日時：1995年12月15日 13時30分～17時00分

場所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：松野，関口，磯部，大西，小倉，里村，竹内，
田中 以上8名

オブザーバー：木田理事

議事：

1. 第28期第12回常任理事会議事録の確認
一部修正のうえ承認。

2. 各委員会からの報告及び審議

庶務…転載許可5件（天気2，集誌1，ノート2）

- ・ 学術情報センターの電子図書館サービス試行運用のために同センターを気象学会の団体会員とし，天気，集誌各2部を有償提供する。
- ・ 学術情報センターの「WWW 資源提供サービス」の利用依頼書を同センターに提出した。気象学会側の担当は里村理事とした。
- ・ 日本原子力研究所からの論文データベースの著作権に関する問い合わせに回答した。
- ・ 文部省の96年度「科研費補助金・研究成果公開促進(B)」に対し，北海道，九州，沖縄の各支部から申請書を提出した。
- ・ 第12回井上学術賞に対する気象学会からの推薦者は選考に漏れたとの連絡があった。

会計…95年11月の収支状況を報告。全体的には順調に推移。

天気…12月号の内容及び1，2，3月号の予定を報告。12月号に掲載する総目次を作成中。

気象集誌…12月号を印刷中。26編，365ページと厚い。第73巻（95年）全体では1339ページで，このうち TOGA 特集号409ページ。

- ・ 最近の impact factor を ISI に問い合わせたところ，93年には0.47（674件引用）であったものが0.873（1004件）と向上した。ちなみに JAS は1.2，Nature は23程度。
- ・ ELSEVIER に印刷を委託する件で，増ページ時の予算増の抑制について相手側に再調整を申し入れたが，現在以上の譲歩は難しいとのことであった。したがって，97年から ELSEVIER に集誌の印刷を委託することは行わないこととした。

教育と普及…「教養の気象学」改訂版について，編集小委員会と執筆者の合同会合を12月20日に

もつ予定。

パソコン通信…11月のアクセス数305回。このうち会員が157，会員外が72回であり，会員の方が多かった。

その他…（庶務）日本惑星科学会から将来計画専門委員会の中間報告が送付されてきた。木田理事と田中（博）理事に配布した。

3. 会員の新規加入等について

個人22名，団体1の入会を承認。個人25名の退会を報告。

4. 95年第3回関東地区連絡会について

標記会合が11月30日につくば市で開催され，関東地区の諸機関から10名が参加した件につき，田中（博）理事から報告。

97年春季大会については，気象研究所を除くつくば研究学園都市の学会員が担当すること，会場は筑波大学を第一候補とすること，大会委員長は筑波大の安成会員に依頼すること等が決定された。

関東地区連絡会が96年度文部省科研費補助金（研究成果公開促進）で一般向けの気象講演会を開催する件については，賛成意見もあったが，①一部の会員に労力が集中すること，②東京近辺ではすでに数多くの同種の講演会が行われていること，③毎年行うためには長期的展望が必要なこと，④春季大会と抱き合わせならば人集めや講演者集めが楽だが，秋に単発的に開催するのは難しいこと，⑤関東地区（支部）として講演会を継続的に開催するのなら「文部省の補助金が出ればやる」ではなく，理事会として別途予算措置をとるべきこと等の慎重論が大勢を占め，連絡会としては補助金申請を行わないこととなった。

春季大会を3年に一度つくば地区で開催することについては了承された。気象研究所の会員とそれ以外の研究機関の会員が交互に担当する。

5. 地球環境科学関連学会協議会（仮称）の設置について

関連学会への呼びかけ文の案を総合計画担当の木田理事から提案。文案について常任理事会で出された意見をもとに木田理事が修文し，松野理事長，大西理事らの間で調整したうえ，関連学会に呼びかけることとする。呼びかけの対象とする学会については，すべてを網羅することはしないが，大きなこと

- ろに落ちないように留意することとした。
6. 地学関連学会連絡協議会の申し合わせ案について
同協議会から、協議会の設立趣旨、構成、運営等についての申し合わせ案が提案された件につき、常任理事会として討議。一部の修正が必要と思われる箇所を除いて、提案のとおりで良いとの結論となった。1月29日に予定されている協議会の次回会合で討議される。
7. CCC 電子アクセス契約について
CCC (Copyright Clearance Center) 電子システムによる論文誌の参照支援業務については、CCC と学協会の間で電子アクセス化のための複製権および有線送信権の権利委託契約が必要であるが、これについて CCC から学協会著作権協議会に仲介依頼が

あり、同協議会から説明資料の送付があった。この取り扱いについて常任理事会として討議。

気象学会はすでに著作権協議会と複写権についての契約を結んでおり、今回の件についても同協議会の仲介を依頼した方が便利であると考えられる。庶務担当理事が協議会と連絡を取り、契約を進める方向で協議することとした。

8. 1996年度事業計画案・予算案について
事務局で用意した草案について討議。今後も引き続き常任理事会で詰めていくこととする。
9. 第28期第2回評議員会について
1月22日を第1候補に、1月18日を第2候補に各評議員の都合を事務局で聞くこととした（その後、1月23日を第1候補とすることに変更された）。

1996年度日本気象学会春季大会シンポジウムのお知らせ

1. 日 時：1996年5月22日（水）13：00～15：00
2. 場 所：大宮ソニックシティ・小ホール
3. テーマ：雷雲
4. 司 会：北川信一郎（中央防雷㈱）
5. 講 演：
- 1) 仲野 實（豊田高専）：雷雲の電気構造と落雷の発生
コメンテーター：村上正隆（気象研）
- 2) 上田 博（北大）：ダウンバースト
コメンテーター：中村晃三（東大海洋研）
- 3) 吉崎正憲（気象研）：雷雲の発生環境について
コメンテーター：小倉義光（気象協会）
- 4) 福西 浩（東北大）：雷放電に伴う中間圏・電離圏の発光現象
コメンテーター：早川正士（電通大）

6. 解 説

1996年度春季大会は埼玉県大宮市で開くことになったことから、地元身近な「雷雲」をテーマに選びました。

埼玉県・群馬県・栃木県など関東地方内陸部は、毎年夏期に、発達した積乱雲に襲われ局地的に雷・雹・集中豪雨・突風などによる家屋・作物や人的被害が起こります。近年、ドップラーレーダーや二重偏波レーダーなどの新しい観測器の登場や数値シミュレーションの発達と共に、積乱雲に伴う諸現象の解明が進んできました。また、雷放電に関しては、雷雲から電離層への放電などの意外な現象も見つかってきています。このシンポジウムでは、積乱雲や雷・雹・突風などのメカニズムが現在どの程度明らかになっているか、またこれらの知識をもとにしてどの程度予報可能かを議論したいと思います。